

「大雨の日」

山口県 周南市立富田東小学校 3年 松本 <sup>まつもと</sup> <sup>いこい</sup> 憩

じゅぎょうがおわった時、急にほうそうがかかって先生がしょくいん室に行ってしまった。そしてきゅう食の時にもどって来た先生が、午後のじゅぎょうがなくなる事と、今日はいつも通り友だちと帰らずにお家の人がおむかえに来るまで学校でまつという事を知らせた。とつぜんでみんなすごくびっくりしていた。多分朝から大雨になっていたからだろうと思った。みんな午後の勉強がなくなるから、やったあとと言ってよろこんでいたし、お家の人がおむかえに来ていっしょに帰れるからいつもよりうれしかった。

きゅう食を食べて、帰りの会もおわったらお母さんやお父さんがおむかえに来た人がどんどん帰って行く。わたしのお母さんは一体何時に来るんだろうと心配になった。雨はどんどん強くなって空もまっ暗になって小学校では今までひなんくんれんを何回もして体育館にあつまった事もあるけれど今回みたいな本当の事はなかった。わたしのお母さんははやくおむかえに来てくれたからとてもあん心した。本当は仕事だけれど小学校からおむかえに来るようにメールが来たからはやびきしてきたみたいだった。

家に帰ると、お母さんはもしかしたらひなんになるかもしれないからと言って、カバンに少しの食べ物と着がえとタオルをつめていた。わたしにも大事な物は2かいにあげるようにいった。だからわたしは大すきなまん画と学校のひつような物を2かいにもって行った。それから昼なのにおふろに入って、ごはんも食べた。まだ夕方にもなっていないのにぜん部おわっていた。雨はどんどん強くなってみんなテレビで市内の川の様子をずっと見ていた。川はすごいりで、茶色にごってとってもはげしかった。お母さんはスマホでいろいろ調べて友だちとれんらくをとっている。川のそばにすむ家ぞくが公みん館にひなんしたから、家も行くかまよっているみたいだった。しばらくすると町内ほうそうのアナウンスがなりはじめた。家から近い所にひなんかんこくが出たからきけんな人はひなんしてくださいという内ようだった。同じとう校はんのお母さんとれんらくをとって、これからの雨と川の様子を考えて、家はひなんしないという事をきめた。夜中ずっと雨がふっていてわたしは心配でなかなかねられなかった。

次の朝は雨は少ししかふっていなかった。けれど川の様子は、あいかわらずでもうすぐあふれそうなくらいだった。テレビでは近くの道が水であふれていたり、電車が止まっていたり、山がくずれたりして様子がうつつっていた。わたしは自分がうんがよかったな、と思った。とても近い場所ですぐ山がくずれて家がながされたりもしていた。

わたしはお母さんと話しあって、大切な物をぼうさいバッグにつめて2かいへおいておく事にした。今回はひなんしなくてぶじですんだけれど、これからは何が起こるか分からないな、と思う。わたしはとてもこわいなと思った。本当にさいがいにあつた人は、もっとこわかったと思う。大雨とか、自ぜんの天気はかえられないけれどわたしが出来るじゅんぴは用意しておこうと思った。